



株主のみなさまへ
第90期 中間報告書

2014.4.1-2014.9.30
(平成26年4月1日-平成26年9月30日)

基本理念

1. 社会 よき企業市民として社会との調和ある成長を目指す。
 - 1) 企業倫理の徹底をはかり、公正で透明な企業活動の推進。
 - 2) クリーンで安全な商品を提供することを使命とし、地球環境保護を重視した企業活動の推進。
 - 3) 地域社会の一員としての役割を自覚し、よい社会づくりに貢献。
2. お客様 革新的な技術開発、製品開発に努め、お客様に喜ばれる、よい商品を提供する。
3. 株主 将来の発展に向けた革新的経営を進め、株主の信頼に応える。
4. 社員 労使相互信頼を基本に、社員の個性を尊重し、安全で働きやすい職場環境をつくる。
5. 取引先 開かれた取引関係を基本に、互いに研鑽に努め、共に長期安定的な成長を目指す。

株主のみなさまへ



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに「第90期 中間報告書」をお届けします。

トヨタ紡織グループは、2004年10月に、豊田紡織、アラコの内装事業、タカニチの3社が合併をしてから、今年、10周年という節目の年を迎えました。

この10年間、新たに生産や稼働を開始した拠点は40以上にのぼります。また、各地域の統括会社を中核にした地域ワンカンパニー体制をつくりあげ、世界各地域でお客様のニーズに応えられる生産・供給体制を整えてまいりました。3社合併の際、第一の目的であった「真のグローバル企業」に一歩一歩ではありますが、近づいてきたと考えています。

しかしながら、私たちを取り巻く市場環境は、新興国を中心とする競争の激化や、日本においては、中期的に見ると少子化などによる市場の縮小、自動車生産の海外シフトの加速など、予断を許さない厳しい状況は今後も続くと思われまます。

そのような状況の中で、当社グループは、「2020年にありたい姿」

を設定しており、その実現に向けグループをあげて課題に取り組んでおります。「世界中のお客様に最高のモビリティライフを提案し続ける会社」としてグローバルに勝ち残るため、あらゆる移動空間への挑戦や成長が続く新興国でのさらなる拡大などを図っていくと同時に、「よき企業市民として社会との調和ある成長を目指す」という基本理念のもと、すべてのステークホルダーから信頼され、ともに成長する企業づくりにまい進してまいります。

そして、この合併10周年を契機に、会社の持続的な発展のため、社員一人ひとりが今一度基本に立ち返り、一つひとつの仕事を妥協なくやりきるとともに、「Quantum Leap(発想の飛躍)」と強い執念を持って、グループの全社員が一丸となって課題に取り組んでまいります。

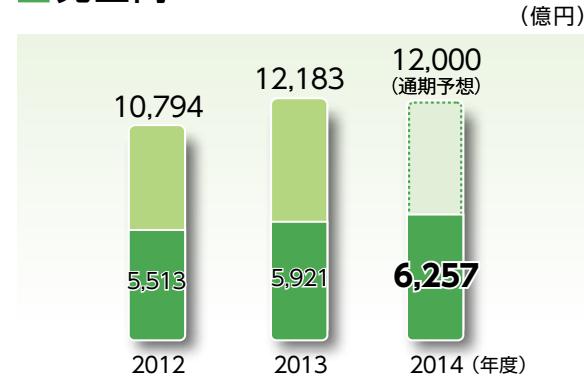
みなさまには、今後とも、より一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

取締役社長 豊田周平

目次

株主のみなさまへ	02
財務ハイライト	03
特別企画(合併10周年を迎え)...	05
トピックス	07
決算概要	09
会社の概況	10

売上高



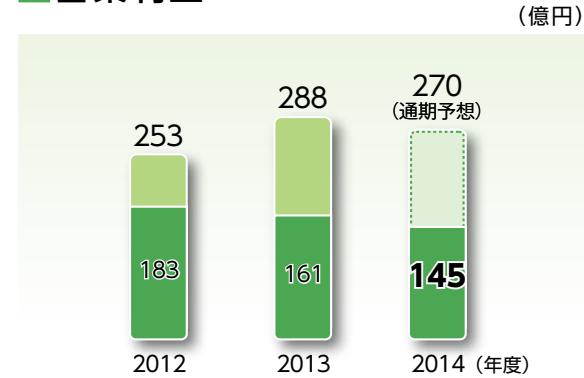
アジア・オセアニア地域の減産はあったものの、北中南米地域の販売台数の増加などにより、増収となりました。

経常利益



営業外収益の減少などにより減益となりました。

営業利益



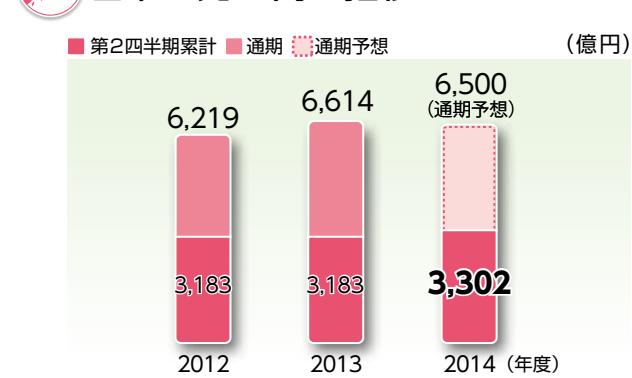
合理化などの増益要因はありましたが、製品価格変動の影響や製品立ち上げの影響などにより減益となりました。

当期純利益



経常利益の減少などにより減益となりました。

日本の売上高の推移



生産台数は減少しましたが、車種構成の良化などにより、前第2四半期に比べ、118億円(3.7%)増加の3,302億円となりました。

アジア・オセアニアの売上高の推移



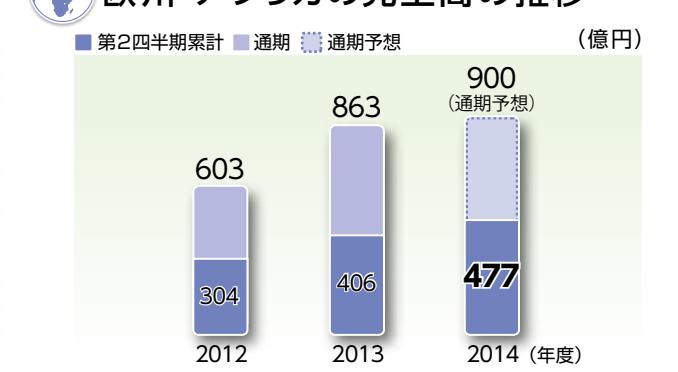
小型車へのシフトやタイヤでの減産影響などにより前第2四半期に比べ、87億円(△5.5%)減少の1,499億円となりました。

北中南米の売上高の推移



北米での販売が好調だったことから、前第2四半期に比べ、266億円(25.0%)増加の1,329億円となりました。

欧州・アフリカの売上高の推移



前年度下期に立ち上がった新製品の生産台数増加により、前第2四半期に比べ、71億円(17.6%)増加の477億円となりました。

合併10周年を迎え、2020年に向かって

2004年、真のグローバル企業を目指し、豊田紡織、アラコの内装事業、タカニチが合併して誕生したトヨタ紡織グループ。3社の想いを受け継ぎながらも新たな挑戦の歩みを続けたこの10年の実績を踏みしめながら、2020年におけるありたい姿を実現するために力強く進んでいきます。

2020年にありたい姿

■ 事業におけるありたい姿

- 世界中のお客さまに最高のモビリティライフを提案し続ける会社
 - 1) トヨタ紡織独自のオンリーワン技術と一貫したモノづくりにより、各地域のライフスタイルにあった製品をいち早く提供している
 - 2) お客さまの期待を超える革新的な次世代製品を生み出し、独自価値の創造で存在感がある
 - 3) 新規事業への挑戦により、地球環境にやさしく豊かな生活をお客さまに提供している

■ 社会から見たありたい姿

- すべてのステークホルダーから信頼され、ともに成長する会社
 - 1) 世界各地域で社員がいきいきと働き、多才な人材がトヨタ紡織に魅力を感じて集まっている
 - 2) 社会・お客さま・取引先・株主から頼りにされ、なくてはならないと言われている
 - 3) 世界各地域でどこにも負けないモノづくりができており、絶え間ない改善が行われている

挑戦、そして成長の10年

トヨタ紡織グループ10年の軌跡を、データと写真で振り返ります。

売上高

3社合併後の2007年にはじめて連結売上高1兆円超え。



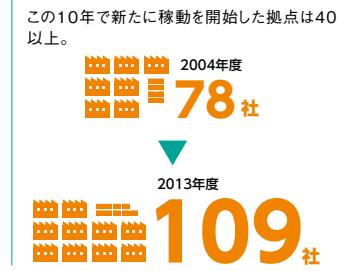
シート生産台数



社員数



関係会社数



森づくり活動

現在では、タイ、中国、トルコ、日本など12カ国で森づくり活動を実施。

植林本数



植林面積



CO₂排出量原単位実績



廃棄物排出量原単位実績



グローバルトレーニー制度による派遣者数

グループ間での短期の人事派遣制度。社員は、派遣先で高いグローバル感覚と語学力を習得。



技能育成センター研修受講者数

「管理・監督者の育成」「極めたモノづくり技能の確立」「保全力の強化」を3つを柱に教育を実施。



トヨタ紡織グループ合併後の比較可能な各種データを紹介しています。取り組み開始時期やデータ収集時期が異なります。

<p>2004</p> <p>3社合併 未来に向けて 「強固な企業体質」の創出期</p> <p>トヨタ紡織グループの主なできごと</p> <p>2004年10月 トヨタ紡織スタート</p>	<p>2007</p> <p>第2の創業期 「定元固めと成長基盤の確立」、 地域統括会社を中心とした グローバルワンカンパニー経営へ</p> <p>2006年12月 第1回技能コンクール 開催</p> <p>2006年12月 グローバル森づくり 活動スタート (インドネシア)</p>	<p>2008</p> <p>創業90周年</p> <p>2008年10月 基礎研究所設立</p> <p>2008年11月 グローバル研修セン ター完成</p> <p>2009年4月 トヨタ紡織学園開校</p>	<p>2011</p> <p>飛躍のための構造改革期</p> <p>2011年2月 技能育成センター設置</p> <p>2011年7月 紡織オートモーティブ ヨーロッパ設立</p> <p>2011年9月 ミラノデザインブラン チ設置</p>	<p>2014</p> <p>合併10年</p> <p>2011年6月 自動車レース専用 スポーツシート</p> <p>2012年12月 ハイブリッドシステム用 モーターコア</p> <p>2013年4月 鉄道車両用シート</p>	<p>2018</p> <p>創業100周年</p> <p>2013年5月 表皮一体発泡工法による 新開発スポーツ シート</p>
---	---	--	---	--	--

そして
2020年へ

トピックス

01 事業展開 ラオス、パキスタンで 生産を開始

2014年4月、ラオスで自動車用シートカバーの生産を開始しました。生産を開始したのは、タイのシート生産を補完するサテライト工場としてラオスに新設した「トヨタ紡織ラオス」で、シートカバーをタイの拠点に供給しています。

また、2014年7月からはパキスタンで、タール、豊田通商との3社による合併会社「タール紡織パキスタン」が、シートフレーム構成部品などの生産を開始しました。ラオス、パキスタンともトヨタ紡織グループとしてはじめての生産拠点であり、今後とも、重要な市場の一つであるアジア・オセアニア地域で最適な生産・物流体制を構築し事業拡大を目指します。



トヨタ紡織ラオスのシートカバー生産工程



生産を開始したトヨタ紡織ラオス

02 技術・開発力 話題の車種に 当社製品が搭載

7月に発売された、LEXUS初のコンパクトクロスオーバーSUV NX "F SPORT" に、昨年発売したLEXUS IS "F SPORT" に続いて、当社の新開発スポーツシートが採用されました。このシートは「表皮一体発泡工法」*により、身体の曲線に合わせた理想的な凹断面形状で、シャープなデザイン、すぐれたフィット感と高いホールド性を実現しています。

また、8月にマイナーチェンジしたダイハツ ミラ ココアのルームランプに、新開発のLEDジュエルランプが搭載されました。ジュエリーボックスをテーマに内装のデザイン性を高め、高輝度LEDによる宝石のような輝きと高い実用性を両立しました。

*表皮一体発泡工法：金型にセットしたシートカバーの中にウレタンの原料を注入し、発泡させて成型



LEXUS NX "F SPORT"



ミラ ココア搭載LEDジュエルランプ



ダイハツ ミラ ココア

03 技術・開発力 中国、イタリアで 技術をPR

2014年4月に、中国北京市の中国国際展覽センターで開催された「第13回北京国際モーターショー (Auto China 2014)」に出展。中国で供給する自動車部品をはじめ、環境にやさしい植物由来原料を活用した内装部品などを展示し、中国でトヨタ紡織グループの高い技術開発力をアピールしました。また、同じく4月に、イタリア ミラノ市で開催の第53回国際家具見本市「ミラノサローネ」に昨年に引き続き出展。住宅用壁面装飾材や植物由来原料のケナフ材を活用した新しいインテリア空間など「クルマとハウスインテリアの融合」を紹介し、当社が持つ高いデザイン力をアピールしました。これからも、世界中のお客様に喜ばれる魅力的で快適、安全な移動空間を提供していきます。



北京モーターショー



ミラノサローネ

04 技術・開発力 岐阜工場にコージェネレーション システムを導入

当社岐阜工場にコージェネレーションシステムを導入しました。コージェネレーションシステムは、ガスなどを燃料としたエンジンで発電機を駆動させ電力を生み出します。同時に発電機の廃熱を利用して蒸気や冷温水をつくり、ほかの設備へ供給する複合システムで、災害時の非常電源としても活用できます。今後も、低炭素社会の実現に向けて、生産活動におけるCO₂排出量の低減に取り組んでいきます。



地域社会とともに

よき企業市民として、地域社会のみなさまとコミュニケーションを図りながら、環境活動、青少年育成・教育活動、地域に根ざした活動など、地域の課題に応える社会貢献活動に取り組んでいます。

ベトナムで小学校建設に協力

トヨタ紡織課長が、ベトナムでイエン・ルアトコミュニン小学校分校の新校舎建設に協力しました。国際NGOプラン・ジャパン*1と連携し、これまでもベトナムやタイなど4カ国7つの小学校建設に協力しています。

*1：子どもとともに地域開発を進める国際NGOプラン(国際本部：イギリス) 新校舎建設に協力したメンバーとベトナムの小学校の子どもたち



当社のさまざまな社会貢献活動の取り組みは、トヨタ紡織レポートでも紹介しています。(ホームページからダウンロードが可能)
<URL> <http://www.toyota-boshoku.com/jp/about/library/index.html>

決算概要

連結貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

科目	当第2四半期末 (2014年9月30日)	前期末 (2014年3月31日)
●資産の部		
流動資産	404,224	390,278
固定資産	271,644	268,730
有形固定資産	231,366	229,264
無形固定資産	2,559	2,238
投資その他の資産	37,718	37,227
資産合計	675,868	659,008

連結損益計算書の要旨

(単位：百万円)

科目	当第2四半期累計期間 (2014年4月1日～ 2014年9月30日)	前第2四半期累計期間 (2013年4月1日～ 2013年9月30日)
売上高	625,723	592,179
売上総利益	56,311	54,596
販売費及び一般管理費	41,760	38,403
営業利益	14,550	16,193
営業外収益	6,300	8,889
営業外費用	1,930	2,233
経常利益	18,919	22,849
特別損失	825	507
税金等調整前四半期純利益	18,094	22,341
法人税等合計	6,898	6,722
少数株主利益	2,458	4,129
四半期純利益	8,737	11,489

(単位：百万円)

科目	当第2四半期末 (2014年9月30日)	前期末 (2014年3月31日)
●負債の部		
流動負債	278,710	267,651
固定負債	144,952	142,275
負債合計	423,662	409,926
●純資産の部		
株主資本	218,065	211,202
その他の包括利益累計額	△ 5,339	△ 4,452
新株予約権	386	515
少数株主持分	39,092	41,816
純資産合計	252,205	249,082
負債純資産合計	675,868	659,008

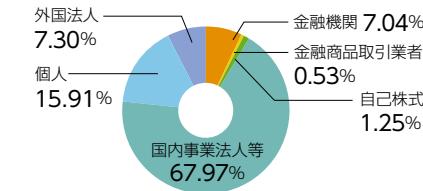
会社の概況 (2014年9月30日現在)

株式の総数

発行可能株式総数 500,000,000 株
発行済株式の総数 187,665,738 株

株主数 (20,340 名)

●所有者別株式分布状況



配当金の推移



当社は、安定的な配当の継続を基本に、連結業績および配当性向などを総合的に勘案し、株主のみなさまのご期待にお応えしていくことを配当の基本方針としています。

●第2四半期配当金について

2014年9月30日の最終の株主名簿に記載もしくは記録された株主または登録株式質権者に対し、次のとおり期末配当金をお支払いします。

1. 第2四半期配当金：1株につき9円
2. 効力発生日ならびに支払い開始日：2014年11月26日

会社データ

設立 1950年5月
資本金 8,400百万円
従業員数 単独 8,305名 連結 40,571名
本社 愛知県刈谷市豊田町1丁目1番地

役員 [取締役および監査役]

取締役社長	豊田 周平	取締役	伊藤 嘉浩
取締役副社長	小山 秀市	取締役	加藤 光久
取締役副社長	宮寺 和彦	取締役	安達美智雄
取締役副社長	滝 隆道	常勤監査役	桂木 正樹
取締役	上田 広司	常勤監査役	伊藤 嘉徳
取締役	野田 憲一	監査役	豊田 章男
取締役	伊藤 文隆	監査役	吉田 均
取締役	堀 弘平	監査役	加藤 宣明
取締役	山内 得次		

主な製品



●内装品
シート、ドアトリム、天井、カーペットなどから構成される移動空間を統合的・効率的にコーディネートされたシステムとして捉え、総合的な美しさや快適性・安全性を追求しています。



●フィルター・パワートレイン機器部品
世界をリードするフィルトレーション技術を駆使し、吸気システムや、エンジン潤滑系部品、車室内空調系フィルターなどの生産を行っています。



●繊維・外装品他
繊維事業ではシートファブリック、エアバッグ用布製品などの開発、生産を行っています。また、外装品事業では補給用バンパー、フェンダーライナーなどの生産を行っています。

株式事務のお取扱いについて

■ 事業年度

4月1日から翌年3月31日まで

■ 定時株主総会

毎年6月

■ 配当金支払株主確定日

3月31日 なお、中間配当を実施するときは9月30日

■ 株主名簿管理人および特別口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

■ 同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号

■ ご注意

- 1.株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に口座をお持ちの株主様の各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式に関するお手続きについて

■ 特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	<ul style="list-style-type: none">● 特別口座から一般口座への振替請求● 単元未満株式の買取（買増）請求● 住所・氏名等のご変更● 特別口座の残高照会● 配当金の受領方法の指定※	<ul style="list-style-type: none">● 郵送物等の発送と返戻に関するご照会● 支払期限経過後の配当金に関するご照会● 株式事務に関する一般的なお問合せ
お問合せ先	特別口座管理機関	株主名簿管理人
	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 [手続き書類のご請求方法] ● 音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479 （通話料無料） ● インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/	

※特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

■ 証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	<ul style="list-style-type: none">● 郵送物等の発送と返戻に関するご照会● 支払期間経過後の配当金に関するご照会● 株式事務に関する一般的なお問合せ	<ul style="list-style-type: none">● 左記以外のお手続き、ご照会等
お問合せ先	株主名簿管理人	口座を開設されている証券会社等にお問合せください
	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部	

■ 少額投資非課税口座（NISA口座）における配当等のお受け取りについて

新規に購入された当社株式をNISA口座でご所有される場合、配当等につき非課税の適用を受けるためには、口座管理機関（証券会社等）を通じて配当等を受け取る方式である「**株式数比例配分方式**」をお選びいただく必要がございます。

ご所有の株式のうち、特別口座に記録された株式をお持ちの株主様は「**株式数比例配分方式**」をお選びいただくことができませんのでご注意ください。

お問合せ先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL **0120-232-711**（通話料無料）

